

イブニングサイトビジット～SWINI～

日時：8月20日（火）18：30～20：00

講師：Randy M. bonella

Richard J. Nitti

文責：愛知県豊明市 松本小牧



Neighborhood house

ネイバーフットハウスは、ポートランド南西部で社会福祉事業を展開する非営利団体である。団体のミッションは、飢えとホームレスを防ぐこと、子供にもお年寄りにも教育サービスを届けることである。事業は4つの柱があり、就学前の子どもたち、学齢期の子どもたち、シニア層、貧困防止のプログラムであり、16000人の人たちにサービスを提供している。サービス提供する建物としては、26か所あるが、ここが本部となっている。ここは管理機能だけでなく、家賃や光熱費が払えない人たちに支援をしたり、食べ物がない人に対して非常用の食べ物を提供したりしている。アートセンターのほうでは、800人くらいのシニア世代の人たちに、レクリエーションや教育、フィールドトリップを企画したり、車のない人に交通のサービスを提供したりしている。年間予算は500万ドルぐ



らいで、いろんなところから来ており、国や州、カウンティやポートランド市、また民間の基金や教会、個人からの寄付から成り立っている。商工会ともうまく協働しており、資金集めに協力してもらっている。マルチマネイバーフットアソシエーションを中心として、住民や企業、非営利団体などが協力して非常によい関係を作っている。

Emergency Food Program

お金がなくて食べるものがなくて家族を養えないというときには、ここに来れば食料の提供を受けとることができる。そのような際にも、敬意と尊厳を持って接することが大切だと考えており、理由はとくには聞かないこととしている。ここの地下には、野菜、果物、米、パン、調味料、缶詰などが備蓄されており、支援を受けたい人は、ショッピングをするように自分で選択して食料を受け取ることができる。食料は、オレゴンフードマークと

いう団体からや、ボーイスカウト、ガールスカウト、教会が行うフードドライブで持ってきたものや、提携しているファーマーズマーケットの出店者から提供してもらったり、住民が自分の畑で作った野菜の余ったものを持ってきてくれたりしている。食べ物はできるだけ健康的なもので、加工品を避けるようにしている。



また、食べ物以外に、赤ちゃん用のおむつやトイレットペーパー、シャンプーなどの生活用品も提供している。これらは連邦政府からの支援ではもらえないものとなっている。

ネイバーフットハウスの隣では、3歳から5歳児のための貧困家庭のための保育所を運営している。またコミュニティガーデンも運営しており、フードボックスに入れる食べ物を作っている。

ネイバーフットハウスに食べ物を取りに来る人は、ひと月あたり500から600家族、1500人から2000人ぐらい。人数で人種はさまざまにアフリカ系、ヨーロッパ系、全米のあらゆるところから来た人などさまざまである。ネイバーフットハウスは、フルタイム職員が70人、パートタイムは40人から50人ぐらいで運営している。

地域に住むマイノリティの人種、生活困窮者のためにこれほどのサービスを市民の活動として行っていることに非常に驚いた。この団体が、NAや地元商店等とパートナーシップをうまく築いていることが、ここまで発展した活動を展開する力をなっているのであろう